

# ウクライナから逃れた人々に速やかに支援を届ける

インタビュー

NGO「ジャパン・プラットフォーム」

小美野 剛 共同代表理事

流動的な情勢

在、ウクライナ危機に対し  
て、どんな人道支援を行つて  
いますか。

——「ジャパン・プラット  
フォーム（JPF）」では現

ウクライナで戦闘が始まつ

難民・避難民の保護、その  
上でアセス・アンド・デリ

ウクライナ危機に伴う難民・避難民の数が増え続  
けている。国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)  
によれば、国外へ逃れた人の数は355万人を超えた  
(21日現在)。“第2次世界大戦後のヨーロッパ最大  
の人道危機”といわれる現状にあって、どんな支援  
が必要なのか。NGO、経済界、政府と連携し、国内  
外の緊急人道支援を実施する国際協力NGO「ジャ  
パン・プラットフォーム(JPF)」の小美野剛共同  
代表理事に聞いた。(聞き手=真鍋拓馬、田代貞治)

危機時代を生きる



こみの・たけし 1980年、神奈川県生まれ。これまでアフガニスタン、パキスタン、ミャンマー、タイなどで支援業務に従事。東日本大震災への緊急支援を行うため、「CWS Japan」を設立し、現在、理事兼事務局長。ジャパン・プラットフォーム(JPF)の共同代表理事、アジア防災・災害救援ネットワーク(ADRN)理事兼事務局長などを兼務し、国内外の人道支援や防災のネットワーク構築のリーダーシップをとる。

初動対応は、こうした支援ニーズの調査が主な目的です  
が、目の前に苦しむ人がいれ  
ば、その都度、水や食料、衣  
服や医薬品等を配布すること  
はもちろんです。

た2月24日の翌25日に緊急の  
初動調査を行うことを決定  
し、26日にはJPFの加盟NGO  
のスタッフが隣国ボーラ  
ンドへ。現地のパートナー団  
体と協議しながら、支援ニー  
ズの把握を開始しました。現

在までに、15のJPF加盟団  
体がモルドバ、ポーランド、  
ルーマニアなどの周辺国で支  
援に当たっています。

難民・避難民の保護、その  
上でアセス・アンド・デリ

バ（調査・評価と配布）  
が、人道支援の基本です。  
今回の危機では、巨大な人  
の流れがあり、情勢も刻々と  
変わっています。戦火から逃  
れてきた人が一つの地域にと  
どまらず、違う場所に移って  
いくことも少なくない。流動  
的な状況の中、避難してき  
た人、また現地で支援する人  
が今、何を求め、必要として  
いるかを正しく把握すること  
が大切です。



ウクライナとの国境に近いポーランドのフレンネで、JPFの加盟店NGOが支援物資を確認する(2日)

私たちには今、「保護」の活動をつけています。とりわけ弱い立場にある女性や子どもを、性的搾取や虐待によるハラスメントから守るために、何よりも重要な支援が必要なのでしょうか。

各NGOは、自然災害も含めた数々の人道危機に際しての支援から、豊富な経験を蓄積してきました。各NGOのスタッフが聞き取り調査を行った(10日)

危機が長期化すれば、それだけ苦しい状況が慢性的に続くわけだ。精神的な影響は計り知れず、心のケアの必要性が高まっています。医師や看護師不足も伝えられます。子どもたちについては、教育を継続して受けられる体制づくり、家族への別離等の起因するトラウマ(心的外傷)のケアが既に喫緊の課題となっています。

また、仮設が早期の停戦が実現し、人々がウクライナに帰還するに備えています。荒れ果てた国土の回復という重い課題が残ることを願うとともに、各段階での支援に尽力しています。

私は「ローカライゼーション」と呼んでいますが、近年では現場主義の支援を中心としています。難民・避難民を受けているのは、外から来た団体ではなく現地の市民やNGOなどです。その事実を忘れてはなりません。それが想定されることは想定されますが、あれ、この危機が早く収束しないことを願なっています。

## 尊厳を守るために

——先ほど小美野さんが想定として述べられたように、

JPFは、NGO、経済、日本政府が協働し、2000年に発足した緊急人道支援の仕組みです。小美野さんは自身も20年近く援助に従事されてきました。その中で、人道支援活動の分野やそれを取り巻く環境はどう変化しているでしょうか。

私は「ローカライゼーション」と呼んでいますが、近年では現場主義の支援を中心としています。難民・避難民を受けているのは、外から来た団体ではなく現地の市民やNGOなどです。その事実を忘れてはなりません。それが想定されることは想定されますが、あれ、この危機が早く収束しないことを願なっています。

危機の長期化も懸念されます。息の長い支援のために、私たちは現地でキャッシュ(現金)の提供も行っています。苦しんでいる人は、自分の必要なお金の支払い手助けをする。それが尊厳の確保につながるとも考えています。

# 苦しむ人が何を求め必要としているか

※2面の写真は全てピース・ウィンズ・ジャパン提供

私たちは今、「保護」の活動をつけています。とりわけ弱い立場にある女性や子どもを、性的搾取や虐待によるハラスメントから守るために、何よりも重要な支援が必要なのでしょうか。

## 危機の時代を生きる

——ウクライナから国外に逃れた人の多くは女性や子どもも高齢者です。どのような支援が求められるのでしょうか。

私は、ハラスメントによって置かれています。とりわけ弱い立場にある女性や子どもを、性的搾取や虐待によるハラスメントから守るために、何よりも重要な支援が必要なのでしょうか。

## 平時からの努力

——今回、戦闘が勃発してから即座に初動を開始したことで敬服します。

JPFには現在、さまざまに専門性を有する42のNGOが加盟しています。例えば、加盟NGOであるピース・ウィンズ・ジャパンは、物資の供与などの支援を越えるための法的手続や、輸送ルートの確保などの見方が豊富で、今回のウクライナ危機でもいち早く支援を届けています。

## 弱い立場の人々

おり、ハラスメント被害を未然に防ぐための方策を備えています。

JPFには現在、さまざまな専門性を有する42のNGOが加盟しています。各団体と信頼関係を構成するために、平時からネットワークを構築しています。現地では、医療・物資の供与などの支援をはじめとする緊急的な医療対応のためのトレーニングを重ねています。他のNGOも同様に、平時から努力を続けています。



困っている人がいるのに、支援しないのはありえない」との心意気と、不可能を可能にしてみせるとの「カルチャー」(文化)が流れています。だからこそ、緊急時にも素早く対応できるのでしょうか。私たちJPFは、そのよう

創価学会とも防災の分野で協力していますが、平時に連携しているからこそ、いざ緊急時に共に支援を行うことが可能になるのだと思います。JPFの役割だと考えています。また、JPFでは国内外の諸団体と信頼関係を構成するため、平時からネットワークを大切にしています。現地でのどんな問題も、協力して解決すれば最も効果的な支援を行えるからを的確に見極めることが、私たちJPFの役割だと考えています。

## 心のケアも

——JPFの発表によると、現在は緊急支援の「初動対応」と位置づけられています。ただし事態の深刻化を受け、ようやく寄付を募り、視野に入れ以上に計画も視野に入れ、協力していま



モルドバの首都キシナウで物資を仕分けするNGO(10日)

てJPFに約15億円が供給されることになっています。たゞしその間に、私たちが現地でキャッシュ(現金)の提供も行っています。苦しんでいる人は、自分が必要な支払い手助けをする。それが尊厳の確保につながるとも考えています。

※2面の写真は全てピース・ウィンズ・ジャパン提供

ご感想をお寄せください

kansou@seikyo-np.jp  
ファックス 03-5360-9613



ジャパン・プラットフォームの「乌克兰人道挑战2022」からの2次元コードから事業に取り組んでいます。